

緊急避難斜路の整備による災害時の避難路確保

5か年加速化対策

国土強靱化

NATIONAL RESILIENCE

災害時の効果発揮事例

概要 要: 5か年加速化対策により避難施設(避難路)等の整備を実施することで、津波予測浸水深よりも高い位置にある緊急避難場所までの経路を確保する。

令和7年7月のカムチャツカ半島付近で発生した地震による津波警報発表時に緊急避難場所として活用された。

対策名: 53 道路の高架区間等を活用した津波や洪水からの浸水避難対策<5か年加速化対策>【国土交通省】

■ 実施主体: 国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部

■ 実施場所: 北海道勇払郡厚真町

■ 事業概要: 北海道勇払郡厚真町は、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震による津波被害が想定されており、津波発生時の緊急避難場所を確保するため、予測浸水深よりも高い位置に整備された日高自動車道の高架区間等を緊急避難場所としている。災害発生時に、当該緊急避難場所への避難を安全かつ速やかに行えるよう、避難通路(スロープ)を整備した。

■ 事業費: 0.5億円(令和3年度)
(うち5か年加速化対策(加速化分)0.5億円)

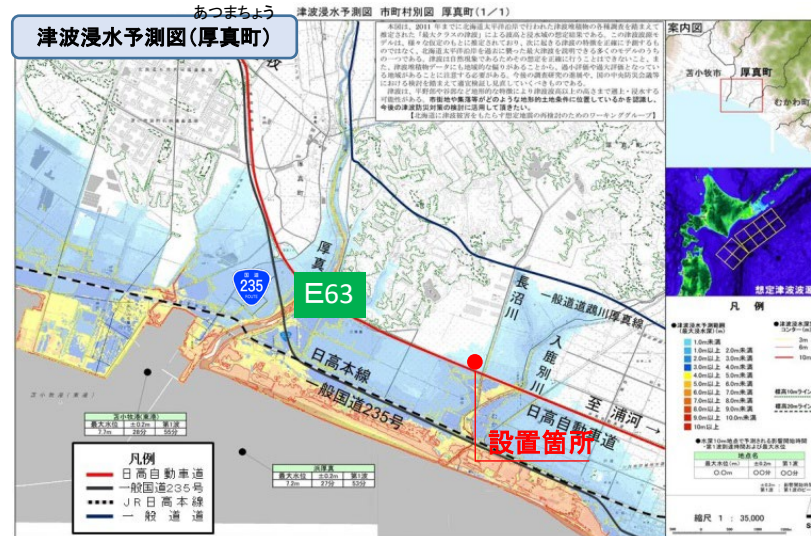
■ 効果: 令和7年7月のカムチャツカ半島付近で発生した地震による津波警報発表時、本事業により整備した避難通路(スロープ)を使用し、8名が予測浸水深よりも高い位置に整備された日高自動車道の緊急避難場所に避難した。

【対策内容】



5か年加速化対策による避難通路(スロープ)の設置

【位置図】



この地図は、国土情報課長の承認を経て、関係機関の整備地図(20000:地図スケール)を複製したものである。(承認番号 H23補修_第102号)